



村岡ケアステーション

事業所概要

- サービス種別：通所介護
- 所在地：藤沢市渡内
- 従業員：10名
- 定員：30名
- 取材協力者：廣岡 雄二 様（管理者）

インタビュー

本日は、ケアプランデータ連携システムを導入されている村岡ケアステーション通所介護事業所の廣岡様にお話を伺います。

まず、**貴事業所の概要**について簡単にご説明いただけますでしょうか？

取材担当 蜂谷
(ケアマネ)

廣岡様

村岡ケアステーションのデイサービスは、定員30名の1日型のデイサービスです。週1回から週5、6回ご利用される方もおり、ご自宅に戻られても安定した生活を送れるよう、またご家族の介護負担軽減も目的として事業を行っています。

今回、藤沢市のケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業に参加された**きっかけ**を教えてくださいませんか？



蜂谷



廣岡様

一番の理由は、**紙媒体のデータが溜まってしまふことによる保管の難しさ**です。年間の利用人数や事業所数を考えると、保管場所の確保が課題となっていました。また、**郵送やFAXでのやり取りによる手間やコスト**も課題でした。郵便料金の値上がりも大きく影響しており、データ上で保存できるようになれば、紙の削減による効率化や、郵送代、FAX用紙代などのコスト削減につながると考え、参加させていただきました。

実際にケアプランデータ連携システムを導入する際に**課題**となった点はございましたか？



蜂谷



廣岡様

まず、導入している事業所がまだ少なかったため、**実際に連携できる事業者が限られていた**ことです。送りたいと思っても、相手の事業所がシステムを導入していなければ連携できません。幸い、**同じ法人内の居宅介護支援事業所と一緒に導入してくれた**ので、まずはそこから連携を開始することができました。

もし法人内に連携できる事業所がなければ、なかなか始められなかったと思います。



法人内に複数の事業所があることは、連携を進める上で大きなメリットだったのですね。現在、連携システムでの**提供票のやり取り**は、どのくらい進んでいますか？



蜂谷



廣岡様

全体で言うと、**3割から4割**程度がデータ連携でやり取りできています。そのうち、完全にデータのみでやり取りしているのが2割、紙媒体と併用しているのが1割という状況です。やはり、最初はデータだけだと不安があるので、併用している事業所が多いです。

既に3割から4割が移行されたのですね！順調に進んでいると言えそうですね。



蜂谷



廣岡様

はい。特に、もともと当法人の別の事業所をご利用されている方が多かったため、その方々の提供票がデータで見られるようになったことで、**事務作業の効率化を実感**しています。これが5割、6割と増えていけば、さらに効果が出てくると思います。

今後ますます連携システムへ移行していくことが楽しみです！今後の連携システムに対する**展望や期待**することはございますか？



蜂谷



廣岡様

まず、先ほども申しあげましたが、データ連携を行っている事業所が増えるほど、ペーパーレス化が進み、業務の効率化につながると期待しています。



廣岡様

もう一つは、現在使用している介護ソフトが各事業所によって異なるため、**それぞれのソフトに対応したマニュアル**のようなものが整備されると、どの事業所でもよりスムーズに連携できるようになるのではないかと感じています。

現在、当法人ではワイズマンというソフトを使用しており、法人内の事業所間では連携の方法が分かってきましたが、外部の異なるソフトを使用している事業所との連携方法について聞かれた際に、明確に答えることができないという不安があります。

そうした点が明確になれば、このデータ連携システムがさらに普及するのではないかと考えています。

本日は貴重なお話しありがとうございました。



蜂谷



事業所概要

- サービス種別：地域包括支援センター
- 所在地：藤沢市片瀬
- 取材協力者：長尾 敏明 様（管理者）

インタビュー

本日は、ケアプランデータ連携システムを導入されている藤沢市片瀬地域包括支援センターの長尾様にお話を伺います。

まず、**貴事業所の概要**について簡単にご説明いただけますでしょうか？

取材担当 蜂谷
(ケアマネ)

長尾様

当事業所は包括支援センターとして、主に介護予防ケアマネジメントと包括的支援事業を行っております。片瀬地域は後期高齢化率が高く、要介護認定を受けている方が多いです。そのため総合相談・包括的支援事業とケアマネジメント業務の両方を担っています。

今回、藤沢市のケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業に参加された**きっかけ**を教えてくださいませんか？



蜂谷



長尾様

まず、**紙ベースでのやり取りを減らしていきたい**という思いがありました。計画書への押印省略化や、提供票の交付方法など、ケアプランもデータで事業所と共有し、帳票類を電子化できればと考えておりました。

また、連携システムを使えば、どこから提供票が届いていないのかといった状況も、データで一覧表示されれば、紙で確認するよりも容易に把握できると考えました。

ケアプランデータ連携システムを導入する際に**課題**となった点はございましたか？



蜂谷



長尾様

私の使用しているパソコンに連携システムをインストールする必要があったのですが、**送信履歴や受信履歴が他のパソコンと連動しない**という点が課題です。

そのため、現状では特定の担当者が提供票のCSVデータを作成し、連携システムで送受信を行う方法をとっており、業務の集中を調整しようとしています。



送受信履歴は、複数のPCで見れるほうが助かりますよね、、、。
連携システムの導入によって、**具体的な成果**はありましたか？



蜂谷



長尾様

はい。まだ本格運用を開始したばかりで、提供票については紙媒体との併用を行っています。データ連携でやり取りしている事業所数は、試験的に開始した2月から現在にかけて**3箇所から10箇所**に増えました。

1か月で7か所も増えたんですね！！



蜂谷



長尾様

はい。しかし、当法人が関わる約80~90の事業所のうち、未だ1割程度です。これから実績データが戻ってくる段階で、連携の効果を具体的に検証していく予定です。まずはこの10箇所とスムーズに連携できればと思っています。

着実に前に進まれているのが素晴らしいですね。
最後に、今後の連携システムに対する**展望**や**期待すること**はありますか？



蜂谷



長尾様

将来的には、**紙媒体との併用をなくし、完全データ化を目指したい**と考えています。まずはシステム運用に慣れている事業所から、提供票のみのデータ連携を進めていくのも一つの方法だと考えています。
また、機能面では、連携システム上で、送信したデータが相手に届いているか、確認されたかどうかのステータスが可視化されると、より安心して利用できると思います。



長尾様

連携システムの導入はまだ始まったばかりで、**実際に運用してみないと分からないことも多い**と感じています。多くの事業所に参加して頂き、実際に活用してもらうことが、このシステム普及のためには重要だと考えています。

国保中央会様も様々なアップデートを予定しているようなので期待して待ちたいですね！
本日は貴重なお話ありがとうございました。



蜂谷



事業所概要

- サービス種別：福祉用具貸与
- 所在地：藤沢市
- 取材協力者：
業務推進部 部長 合田 実様
業務推進部 シニアチーフ 國武 さつき様

インタビュー

今日は、ケアプランデータ連携システムにご参加いただいた御社における導入の経緯や効果について詳しくお伺いし、まず、**御社の概要**について合田様からお聞かせいただけますでしょうか？



株式会社ニッショウは湘南地域で事業を展開し、福祉用具販売から運動系デイサービス、居宅介護支援まで幅広く提供しています。地域内の連携を強化し、茅ヶ崎市にはショールームを開設。デイサービスでは介護予防に特化した運動を提供し、利用者の健康維持を支援しています。

デイサービスは湘南エリアに5事業所展開されているとのことですが、ケアプランデータ連携システムはどのように**導入**されたのでしょうか？



ケアプランデータ連携は、当初国保連との連携に課題を感じつつも、ケアマネジャーさんとの連携強化を目的に導入し、3事業所で活用しています。藤沢市・茅ヶ崎市内での導入が少ない状況下、早期登録によりケアマネジャーさんからの要望に迅速に対応できる体制を構築しました。

導入当初、**課題**などはございましたでしょうか？



課題は、**導入事業所の少なさ**と、システム間の**互換性**です。CSVファイル出力後のデータ不整合や、提供表の入力内容と実際の貸し出し数の差異など、フォーマット上の問題も発生。その都度、ソフトベンダーへの確認対応が必要です。



次田

実際にシステムを利用して、お使いの介護ソフトからのデータ連携はいかがでしょうか？



國武様

ケアプランデータはCSVで簡単に出力でき、連携アプリへのアップロードもドラッグ&ドロップで容易です。「ご不明な点ご連絡ください」といったメッセージ添付機能も便利です。実績以外では、居宅介護支援事業所からPDF資料を受け取ることもあります。



次田

合田様は、ケアプランデータ連携が営業ツールとしても活用できる可能性について言及されていましたが、具体的なアイデアはございますか？



合田様

電話やFAX以外でケアマネジャーさんと繋がる手段は課題と感じておりましたので、テキストでのやり取りができることは非常に良いと考えています。例えば、新しい福祉用具の情報などをメールでお知らせしたり、YouTubeの紹介動画へのリンクを添えたりといった活用方法が考えられます。



次田

福祉用具の場合、納品や回収、商品変更など、こまめな情報をボタン一つでケアマネジャーさんに伝えられるようになることを期待しています。これにより、当事業所とケアマネジャーさんの事務作業が大幅に軽減されるのではないかと感じています。



國武様

ケアプランデータ連携によって、これまで印刷・FAXで行っていた業務が、介護ソフトからボタン一つでデータ連携できるようになることで、**事務作業が大幅に削減される**と期待しています。事務作業は**8割ほど削減できる**のではないかと考えています。



次田

最後に、ケアプランデータ連携を含め、地域が連携していく上で期待することなどございましたら、一言ずついただけますでしょうか？



合田様

はい。人と人の連携を大切にしつつ、その裏にある膨大な事務作業をいかに少なくしていくかが重要だと考えています。データ連携のような新しい取り組みに期待し、共に育てていきたいです。



國武様

はい。事務作業の負担が軽減されることで、ケアマネジャーさんとの連携がよりスムーズになり、利用者様へのより質の高いサービス提供に繋がることを期待しています。

編集後記



この度、「ケアプランデータ連携による活用促進モデル地域づくり事業」の取り組みをまとめた【藤沢市好事例集】を発行する運びとなりました。本事業は、市内介護サービス事業所における生産性向上と業務効率化を図り、ひいては地域全体の介護サービスの質の向上を目指す重要な取り組みです。

本事例集では、モデル地域として先進的にケアプランデータ連携システムを導入にご協力いただいた4つの事業所様の貴重な事例をご紹介します。具体的には、半日型リハビリデイサービスのALPHA工房様、地域包括支援センターである藤沢市片瀬地域包括支援センター様、そして居宅介護支援事業所とデイサービスを運営する村岡ケアステーション様にご協力いただきました。

各事業所様の事例からは、紙媒体での煩雑な情報共有からの解放、迅速な情報連携による支援の質の向上、そして事務作業の効率化による負担軽減といった、ケアプランデータ連携システムの導入効果が具体的に示されています。導入時には、システム設定や関係機関との連携といった課題も見受けられましたが、各事業所様の積極的な取り組みと、丁寧な導入支援によって着実に成果を上げられていることが伺えます。

特に、提供票のデータ連携による印刷・郵送コストの削減や、情報伝達の迅速化による利用者へのよりスムーズなサービス提供は、今後の市内全域へのシステム普及に向けて大きな期待を持てる成果です。また、システム導入を契機とした職員のICT活用能力の向上や意識改革といった、副次的な効果も確認できました。

今回の事例集が、市内外の介護サービス事業所の皆様にとって、ケアプランデータ連携システムの導入を検討される際の良い手引きとなり、地域におけるより質の高い介護サービスの提供に繋がる一助となれば幸いです。

ご多忙の中、貴重な事例をご提供いただいたALPHA工房様、藤沢市片瀬地域包括支援センター様、村岡ケアステーション様の皆様、株式会社ニッショウ様、そして本事業の推進にご尽力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。今後も本事業を通して得られた知見を活かし、地域包括ケアシステムの更なる推進に努めてまいります。



介護をつなぐ。心がつながる。



ケアプラン
データ連携システム

2025年3月発行



藤沢市
Fujisawa City